

平成 17 年度 第 5 回 主要課題改革推進委員会  
委員会終了後記者会見録

日時：平成 17 年 11 月 28 日（月）12:57～13:04

場所：永田町合同庁舎第 4 会議室

司会 それでは、お待たせいたしました。第 5 回「主要課題改革推進委員会」の記者会見を始めさせていただきます。

早速、御質問をお受けします。御質問のある方は御自身の所属からお願いいたします。

記者 先ほどの会議の最後のところで、議長から一番隔たりを感じたというお話がありましたけれども、いろいろテーマがありましたけれども、一番大きな隔たりを感じたというのは具体的にどの部分かということが 1 点。

もう一つ、株式会社の農地取得の自由化というところに関して、これは確認なのですが、外資も含めてということで考えていらっしゃるということによろしいのかという、その 2 点についてお願いいたします。

宮内議長 ほとんど一致点がなかったということで、次はどういうふうに持っていくのかなと思ってお聞きしていたのですが、やはり株式会社の排除だとか、競争回避といいますが、いわゆる強い農業にしようという意識、そうしないと農業も農村も持たないのではないかという危機意識と、やはり従来の農村文化は特殊なのだという、そこからまだ吹っ切れていないと思います。吹っ切れなかったがために日本の農業はここまで、農家も含めてどんどん競争力が落ちていったのだろうと。私自身は非常に暗然たる気分でお聞きしておりました。私は、必ずもっと強い農業にできるとしております。

それから、株式会社、外資などをどうするというはまたそのときに十分議論すべきだと思います。例えば、放送は外資による出資は何%以上はいけないとか、そんな特殊な産業というのはあり得るのだと思いますから、議論すべきだと思います。

私自身は特にこだわる必要はないのだろうと。これは私個人の意見ですが、当会議の意見ではございません。しかし、産業によっては外資規制というのはあり得るとしております。

司会 ほかに、ございませんでしょうか。御質問よろしいでしょうか。

宮内議長 あと、南場主査から何か御感想を。

南場主査 やはり議長と同じく、まだかなり隔たりが大きいなと思われました。特に株式会社による農地の所有を制限するというところに関しては、本当にどれほど所有したいと思っていられる株式会社がいるかどうかということもまた別としても、自由を制限するからにはそれなりの理屈と、あるいはデータが必要ではないのかなと感じましたけれども、その点に関しては理屈の上でも全く納得のいくものではなかったと感じております。

記者 福井専門委員にお伺いしたいのですが、これまで数回のこの委員会にずっ

と出られていて、宮内議長も隔たりが一番大きいとおっしゃったんですけれども、農林水産省の、今回、そんなに議論としてがんがん盛り上がったというふうな雰囲気はなかったと思うんですが、一番問題だと思われた点というのはどういうところですか。

福井専門委員 個人的感想で申し上げますと、農林水産省は日本の農業を強くするためにもっと力を発揮して欲しいということを強く感じました。

失礼ながら、一連のやりとりを通じて非常に強く感じるのは、農業の将来、あるいは日本の食の将来というよりも、現にそこで農業を営んでおられる既得権を持つ農業者の方々に非常に気を使っておられることです。それよりは、やはり農家の保護ではなくて、農業の生産力増進をもっと強く打ち出してほしい。それが日本国民のためではないかという感想を持っています。

記者 その点は、やはり、ほかの省庁よりも一段と顕著だというふうにごらんになりますか。

福井専門委員 非常に強く感じます。

司会 ほかに、ございませんでしょうか。

記者 本日の議論を伺っていると非常に隔たりが大きいということで、年末に答申をまとめられるんですね。こんな状態で果たしてまとめていけるのかどうか。農業の方について、その辺の見通しについてお願いしたいんですが。

宮内議長 これはどうにもならぬなというのが、今の感想ですけれども、これでは我々の役割が果たせませんので、また南場主査始め委員、専門委員の皆様方に頑張っていたいて、どこまで、1点でも、3点でも取れるのかどうか。

しかし、我々の考えていることについては粘り強くやるというのが、これまでの規制改革の民間委員のやってきたことですので、この12月の答申で終わる問題ではありません。12月まではできるだけ取ろうという、最大限努力しますということと、たとえ万が一取れなくても、この問題は来年度以降も継続してやらないといけない問題だろうと思います。

司会 ほかに、ございませんでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、これにて会見を終了いたします。ありがとうございました。